



サル痘にかかる献血の安全性について

2022年7月22日

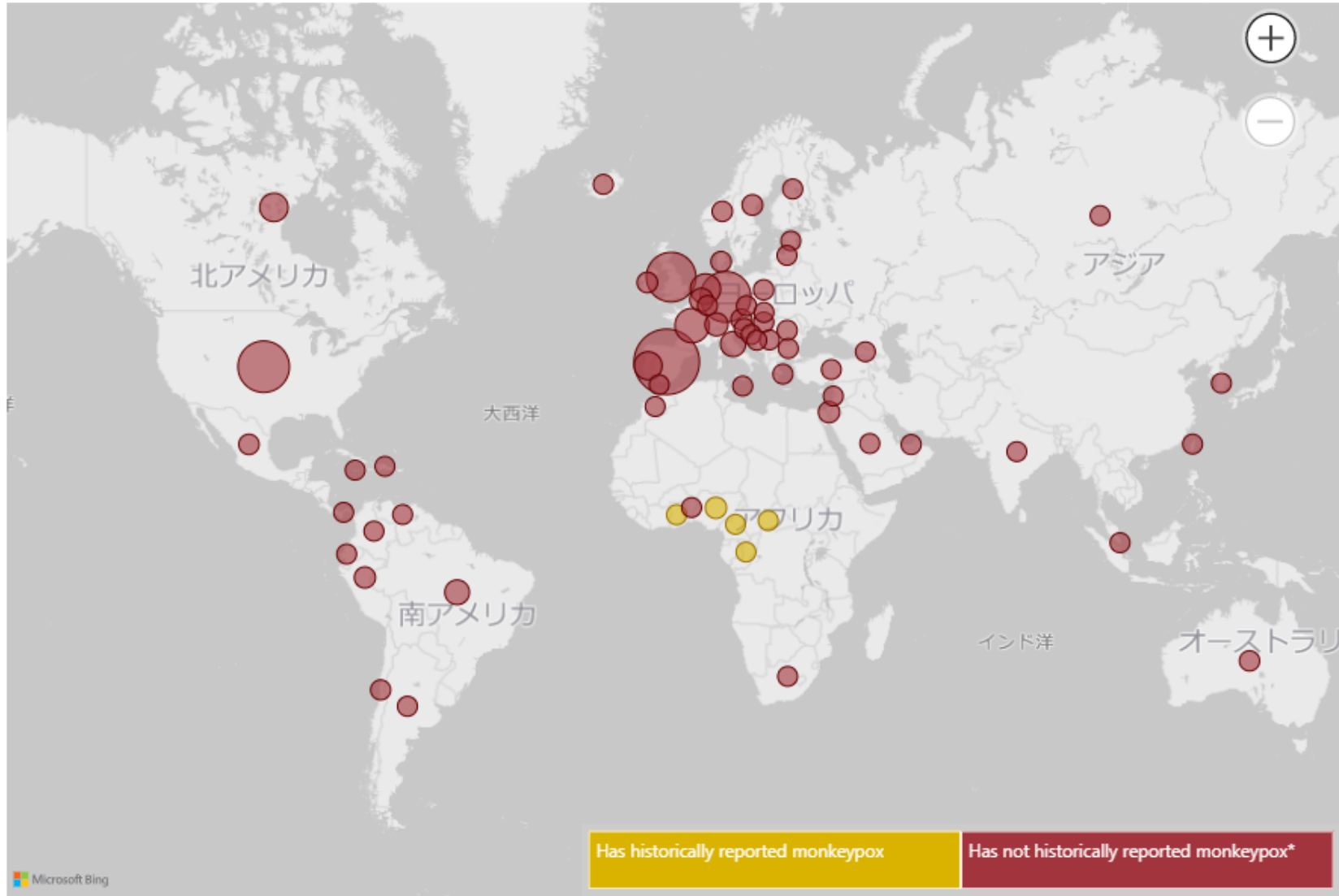
大隈班資料

日本赤十字社

Monkeypoxのアウトブレイク

- 1970年にザイールで人感染の報告、その後アフリカ中西部で散発的流行
- 2003年に米国でアフリカからの輸入動物由来のアウトブレイクが発生
- 近年、アフリカからの帰国者を発端に、ヨーロッパ、米国、イスラエル、シンガポール等で感染者が認められた
- 2022年、UK、フランス、ドイツ、スペイン、カナダ、米国等で各国100名以上の感染者が認められている
- MSM間での感染例が多く認められる
- 天然痘ワクチンが有効とされる
- 抗ウイルス薬で使用できるものがいくつか承認されている(FDA)

2022 Monkeypox Outbreak Global Map (CDC)



Data as of 18 Jul 2022 5:00 PM EDT

	Total Confirmed Cases	Number of Locations
Has historically reported monkeypox	240	6
Has not historically reported monkeypox*	13100	63
合計	13340	69

Location	Total Confirmed Cases
<input checked="" type="checkbox"/> Has not historically reported monkeypox*	13100
Spain	2835
United States	1971
Germany	1924
United Kingdom	1856
France	912
Netherlands	656
Canada	539
Portugal	515
Italy	339
Brazil	310
Belgium	224
Switzerland	208
Israel	96
Peru	92
Austria	83
Sweden	58
合計	13340

Notes: Case data reported since January 1, 2022 are provided for situational awareness and subject to change. Confirmed cases include those laboratory-confirmed as monkeypox virus (MPX) and may include cases only confirmed as orthopoxvirus. Among locations (including countries, territories, and areas) that have not historically reported MPX, several have reported sporadic cases linked to travel or imported animals prior to 2022. Additionally, Ghana had not historically reported MPX cases, however, the country was identified as the source of a shipment of wild mammals that subsequently led to the [2003 outbreak in the U.S.](#)

Source: WHO, European CDC, US CDC, and Ministries of Health
[2022 U.S. Map & Case Count](#) | [Monkeypox](#) | [Poxvirus](#) | [CDC](#)

Monkeypox

- 潜伏期：多くは7～14日（5～21日の幅）
- 発症：発熱の1～3日後に発疹が発現（多くは顔から始まり、その後各部位に広がる）、2～4週間で痂皮化する
- 感染経路：皮膚病変部位への接触や、長時間の対面接触による呼吸器からの飛沫感染（ベッドリネンや衣服からの感染もある）
- Viremia：MPXV DNAは血液や上気道スワブから検出されるが、無症候や発症前のviremiaについてはデータがない
- 血液感染：現在までに血液や臓器を介した感染の報告はない

UKのサル痘ウイルス感染後の献血受付基準

【感染者】

供血者がサル痘ウイルス感染（確定診断又は疑い）から回復し、以下のすべてに該当する場合、献血可能とする。

- ◆ サル痘の診断を受けてから、少なくとも28日が経過している
- ◆ 回復してから少なくとも14日が経過しており、良好な状態が継続している
- ◆ すべての皮膚病変が治癒してから、少なくとも14日が経過している
- ◆ いずれの抗ウイルス治療又は抗菌治療が完了してから7日を超える期間が経過している
- ◆ すべての追跡調査（公衆衛生サーベイランスも含む）が完了している

【濃厚接触者】

公衆衛生機関により、サル痘感染者の濃厚接触者と特定された供血者がサル痘ウイルス感染者と接触してから21日を超える期間が経過しており、以下のすべてに該当する場合、献血可能とする。

- ◆ 供血者がサル痘の症状を一切呈していない
- ◆ 供血者のいずれの隔離期間も終了している
- ◆ すべての追跡調査（公衆衛生サーベイランスも含む）が完了している

接触者は、重症なサル痘の発症リスクを軽減するため、第三世代天然痘ワクチンであるImvanex®を接種している場合がある。Imvanexは非複製・弱毒性の生ワクチンであるが、供血者選定においては不活化ワクチンとして扱うべきである。Imvanexの接種歴がある者は、上記の各要件を満たせば献血可能である。

UKのサル痘ウイルス感染関連献血後情報の対応

- ◆ 供血後21日以内に体調不良を呈した場合には、（血液事業者に）症状等を連絡するよう、供血場所において供血ごとにリマインドすることとされている。
- ◆ 当該供血血液に由来する輸血用血液製剤は在庫停止とする。これらの製剤が輸血に使用されていた場合、受血者の主治医に情報提供するとともに保健当局に報告する。

血漿分画製剤の安全性

- ◆ Disease Agent Characteristics:ポックスウイルス科オルソポックスウイルス属。エンベロープ有。二本鎖DNAウイルス。直径140-260 nm、全長220-450 nm。
- ◆ Pathogen Reduction Efficacy for Plasma Derivatives（分画製剤製造工程中の不活化）：エンベロープ有のウイルスに効果のあるさまざまな不活化工程、ワクシニアウイルスに効果のあるS/D処理や殺菌処理、ナノフィルトレーションはMPV不活化効果が期待される。

国内発生時の対応案

安全対策の分類

対象	リスク	リスク低減の対応基準
献血者本人	献血者の健康状態	問診による健康状態や感染リスクの確認
献血会場	献血会場での人から人への感染	病原体の感染様式（飛沫/接触感染等）に合わせた対策 濃厚接触者の対応基準
輸血用血液製剤	輸血による感染	問診による健康状態や感染リスクの確認 献血後情報の対応 (出庫停止、情報提供と未使用製剤の回収)

➡ 新興再興感染症については、病原体のリスクが判明するまでは慎重な対応が必要である

なお、サル痘の輸入感染例は7月19日現在認められていない。国内感染事例もない。

サル痘に関連すると考えられる問診項目

- 問診 1：今日の体調は良好ですか（有熱者、急性疾患、体調不良者からは採血しない）
- 問診11：既往歴の確認（その他として、ウイルス性皮膚疾患等を確認する）
- 問診14：帰国後（入国後）4週間の献血延期
- 問診15,16：（ヨーロッパ・米国・カナダ以外の）海外滞在歴による1年から3年の献血延期（マラリア等感染リスクの排除のため）
- 問診20：性的接触等（新しい性的パートナーやMSMとの接触後は6カ月献血延期）

国内感染発生時の対応（案）

【感染既往者の献血受け入れ】

サル痘ウイルス感染（確定診断又は疑い）から回復した者については、当面献血延期とする。
（輸血感染のリスク等の評価が可能となった時点で改めて評価する）

【濃厚接触者の対応】

サル痘感染者の濃厚接触者については、潜伏期間中（サル痘ウイルス感染者との最終接触日から21日間）は献血延期とする。

【献血後情報の対応】

献血後情報入手した場合、当該献血血液由来製剤は供給停止とし、供給済みで未使用の製剤は回収する。